Yoshiko YAMANOUCHI: A Survey on Children's Reaction
in the Vicinity of the Foreign Armed Forces Base.
First Report. Attitude of Preschool Children.

駐留軍基地の小児の実態調査

第1報 幼児期について

広島女子短期大学

山 内 美 子

かつては東洋一の海軍工場があるといつて誇りとし、また直接間接にこれに依存していた呉地区住民は、工廠の被爆による家族の公傷死及び失職、中心街の焼夷弾による家族及び財産の焼失、山の手方面の大出水による生命財産の被害、戦後の食糧不足とインフレの災厄を受けて生活に喘ぐ者が続出したのであつた。更にこゝに米軍の中国地区軍政部と英連邦軍の兵站基地が置かれた。やがて呉市民の誇りを傷けるような職業の女性があらわれた。家族の飢を救うために犠牲になるという美名のもとに女学校卒、女専卒までも売春婦になつたのである。大槻¹⁾は「売春婦となる心理は墮落願望が重大な契機となつている場合が非常に多い」といつているが、意識面では家族のための犠牲が理由であつた。売春婦の殆どは他所からの流入者(中野ほか²⁾)といわれるが、終戦当時は必らずしもそうではなかつた。某保母主任は「自分がかつて保育した娘がパンパンになり、家を建てたり、電気の家具類を次々購入するのを、園の子供達は敬意の眼でみている」と歎いていた。呉地区は他の基地の如く耕作地又は漁場をとられるとか、爆音で悩まされるというようなことはないが、風記問題で児童の将来を憂える者の心はなほだ暗いものがあつた。

今までに発表された文献としては日教組から出されたものに³⁾に学童に対する弊害調査

があり、中学生および小学生に作文をさせた清水ほか²⁾氏のもの⁴⁾、中野ほか⁵⁾による幼児の事例報告等があるが、他区の小児人口集団を対象として、それがどのような影響を受けているかというような取扱い方をしたものが見当らない。著者は今回の調査を企てるに当つてまずそのような集団的なとらえ方をして基地の小児およびその保護者の行動、態度の調査をすることを主とした。

対策の樹立についても、善後策の企画についても、このような集団的なとらえ方による調査の結果の方がより大きな参考になると思う。

調査方法

日時、場所および対象：昭和28～30年の間に呉地区で調査したものである。すなわち駐留軍に影響を被つていると思われる地区8カ所を選び、その保育園計8カ所と幼稚園1カ所の幼児を基地幼児と仮称して検査対象にとり、正常対照としては呉地区で駐留軍が殆ど通行していない住宅街の保育所2カ所、広島市内の2カ所、農村2カ所計6カ所の保育園の一般幼児を選んだ。これらの対象はみな5～6才の未熟学児で、基地352名、一般248名。保護者は対象児の各親である。

調査項目の設定

(α) 保護者に対する質問

については、保護者の養育態度乃至「仕付け」の態度をうかがおうとつとめた。この点について多くの学者 7-14) が種々分類法を試みているが、著者は次のような質問紙を作製して、厳格型、中庸型、寛大型の3種に分類してみた。そして親が小児の態度を惡とみた場合の反応型を中心としてこの分類を当てはめた。それは質問事項が多いと被調査者の態度がなおざりになるのを怖れたからである。

質問事項の設定に先だち呉公団食糧配給所へ依頼して3~5才児のいる家庭を20軒検べて貰い、子女の教育について日常意にかけている事柄を自由に好みの文体で記入して貰った。それを基にして次のような質問紙を作製した。

該当する番号に○印をつけて下さい。

(A) 家庭の仕付け態度

(I) お子様のお行儀が悪い時は注意を (1) 何時もする (2) 時々する (3) 幼いからしない。

(II) 悪い言葉を使われると (4) すぐ直す (5) 時々 (6) 近所が悪いのでそのまゝ。

(III) 乱暴な事を人や物にすると注意を (7) すぐする (8) 時々 (9) 幼いからしない。

(IV) お子様の態度が悪い場合注意を (10) すぐする (11) 今は小さいからいわない (12) 家が忙しいのでなおざりになり易い (13) 悪いことをしたら叱るが、その他は大目である (14) 気分のまゝに賞めたり叱つたりする。

(V) お子様質問されたら (15) 何時も答える (イ, 得心が行くまで ロ, 簡単に ハ, いろいろ加減に) (16) 時々答える (17) 答えない (イ, 忙しい ロ, 判らない ハ, 面倒臭い)

(VI) 絵本は (18) 買つて与える (19) 好きな本を買つて与える (20) 与えない

(VII) 玩具を (21) 買つて与える (22) 買わせる

(VIII) お子様相手に (23) 遊ぶ (イ, 毎日 ロ, 毎休日, ハ, 月に1回位 ニ, 時々) (24) 遊ばない (イ, 忙しいから ロ, 面倒だから)

(IX) 小遣いを (25) 与える (四) (26) 求めるから与える (四) イ, 毎日 (① 1回 ② 2回以上) ロ, 時々 ハ, 与えない。(使途)

(B) 幼児の異常行動について

最近のお子様は (1) 爪を噛むようになった (2) 食物の好き嫌いをいう (3) きづわけがなくなつた (4) 寝小便が初まつた (5) 嘘をいうようになった (6) すぐ泣くようになった (7) 指をなめるようになった (8) 何もやらなくなつた (9) 倦き易くなつた (10) 吃音になつた (11) 遊びの邪魔をするようになった (12) 疳癪を起すようになった (13) その他 ( )

(C) 遊戯について

お子様の遊び (1) 戦争ごっこをする (させないようにする) (2) 刀をふり廻す (させないようにする) (3) 「まゝごと」に外国兵や売春婦の事をとり入れている (イ, いるらしい ロ, しらない) (4) 医者ごっこ, パンパンごっこをする (自分の子供はしないが他家の子供はするらしい)

(D) 駐留軍滞在について

駐留軍のいることは (1) 教育上悪いから早く帰国してほしい (2) 家の経済上少しでも長くいてほしい (3) 教育上悪いが家の経済上長くいてほしい (註=教育上よい—語学が上達するから—というふうな意見は全くなかつた)。

(E) 保育者について

お子様の教育をする人は主として誰ですか=父, 母, 祖父, 祖母, その他 ( )

(F) 説諭について

お子様が悪いことをされた時は何とおつしやいますか=神仏がみている, 祖先に申訳がない, 家の子にしない, 乞食にやつてしまう, その他 ( )

(β) 幼児に対する質問

を設定する前に 幼児語を理解するにつとめたたとえば次の様な語が対象幼児の間に広く用いられているのを認めた:

ハロー	は駐留軍兵士を意味する
おねえちゃん	〃 売春婦 〃
けんか	〃 駐留軍兵士と売春婦との戯れ 〃

幼児に対してはすべて著者が面接して直接に質問した。その質問事項は次の様な順序に運ぶようあらかじめ設定しておいた。

1. 名前を教えて頂戴

2. 年はいくつ？
3. ハローは好き？
4. なぜ好き（嫌い）？
5. ○○ちゃんのお家の前を通るの？
6. ○○ちゃんのお家へ来るの？
7. ハローはお家に泊っているの？
8. ハローと遊んだことある？
9. どんなことをして遊ぶの？
10. ハローと歩いているお姉ちゃん好き？
11. なぜ好き？（嫌い？）
12. お姉ちゃんと遊んだことあるの？
13. どんなことをして遊ぶの？
14. お家のお父さん、お母さんは ハローや、お姉ちゃんのことを何と話していらつしやるの？
15. ハローは長く呉（江田島、広）にいた方がいい？
16. それはなぜ？

記録の取り方

調査書の配布—各園長、保母主任に全園児へ配布して貰うよう依頼し、回収もその労をとって貰った。全体の回収率は 85% であった。

調査書への記入法—被調査者への該当する項へは何か所でも ○印をつけて貰った。1 項目に 1 カ所と制定するような内容ではないからである。従つて集計は延数となる。

調査書の処理法—A 項は第 1 表のような方

第 1 表 保護者仕付け型の決め方
（数字は調査書の数字に合致する）

項 目	厳 格 型	中 庸 型	寛 大 型
1. 悪い行儀	1, 2	厳 格 型 寛 大 型 に 属 さ な い も の	3
2. 悪い言葉	4, 5		6
3. 乱暴な行為	7, 8		9
4. 悪い行為	10, 13, 14		11又は12 15のイ又はロ、又はハ、16 19又は20
5. 発問の謬合	15のイ		
6. 絵本購入	18		22
7. 玩具購入	21		
8. 子供と遊ぶ	23のイ又はロ又はハ		23又は24
9. 小 遣 い	26のイで 使途記入		25と26のロ 使途記入の ないもの

法で 1 枚の調査書全体とにらみ合せて、厳格型、中庸型、寛大型に分類した¹⁵⁾。各項目の出現百分率を信頼度 60% で信頼巾を求めて図示した。

B 項は幼児の異常行動と親の仕付け態度および異常行動の相関々係をみる。又基地家庭と一般家庭の相違をみる。

C 項では親の仕付け態度および基地家庭と一般家庭の相違の有無をみる。

D 項は基地家庭と一般家庭の相違の有無

E 項は親の仕付け態度と説論との関係、説論の内容と幼児の異常行動の相関々係をみる。

幼児との面接—別室へ 1 人ずつ繰り出して貰つて 1:1 で筆者が全員に当つた。が中に園長が側に坐して時々口を出された園もあつた。殆どの園は畳部屋で坐つて面接した。板部屋では椅子に腰かけさせた。畳部屋での幼児の坐り方は自由にさせたので胡坐姿も大分あつた。又中には筆者が坐して面接用の書類を置いている机へ斜に腰かけて脚を組み、奇妙な媚態を思わせるように、身体を妙にくねらせながら返事をし、その後、手を口に当て、オホホ、と笑う者もあつた。

所要時間は 1 人平均 3 分位であつた。駐留軍に対する幼児の好悪状態は保護者の調査書提出の有無を問わず、意志表示した者 382 名を採用した。その他は保護者の態度と幼児の意思との相関々係をみるようにした。

調 査 成 績

I 親の仕付け態度（第 2 表）

きびしい仕付けを厳格型、ゆるやかな仕付けを寛大型、両者何れも属さないのを中庸型とした。厳格型の中には理性的な態度で納得させようとするのと、感情的に自我中心的態度で仕付けるのがあると思われる。寛大型の中には間接的な態度で何時もよい模範は示すが、殆ど干渉らしいことを口にしないのと、感情的にたゞ可愛がつて如何なる小児の態度でも寛容するのがあるように思われる。以

第 2 表 仕付け態度の型

	基地	非基地	合計
厳格型	% 30.8 人 100	% 37.9 人 94	% 33.9 人 194
中庸型	% 53.2 人 172	% 39.2 人 97	% 47.1 人 270
寛容型	% 16.0 人 52	% 22.9 人 57	% 19.0 人 109
	% 100.0 人 325	% 100.0 人 248	% 100.0 人 573

上述べた 4 型に 中庸型を加えて 5 型に分類することはこの調査書では困難と思われたので 3 型とした。

全体的にみると 中庸型 47.1% > 厳格型 33.9% > 寛大型 19.0% となる（文中の > は有意の差のあることを示す）基地もほぼ同様の傾向であるが、非基地は中庸型が多い傾向ではあるが、厳格型とは有意の差が認められない。

第 1 図 (No.1) 駐留軍兵士との遊び

基地と非基地との差（以後地域差とする）厳格型は非基地 > 基地，中庸型は基地 > 非基地，寛大型は非基地 > 基地と各々有意の差が認められる。

Ⅱ 駐留軍兵士との遊び (第 1 図 No.1)

基地の男児 181 名，女児 201 名，計 382 名を各項出現回数で百分率を求めたものを信頼巾で表わすと第 1 図のようになる（以後 N = 382 名但し男 181 名，女 201 名とする）。

家の近くへ来た事がない 39.3% > 家の前を通る 26.5% > 家に来る 17.6% > 家に泊る 7.8% と有意の差が認められる。

駐留軍兵士と遊ばない 73.1% > 遊ぶ 26.9% と有意の差が認められる。

家の近くへ来た事がないが遊ぶのは男 > 女と有意の差が認められる。家の前を通るのと遊ぶ，近所の家に来たり泊ったりするのと遊ぶ，家に来るのと遊ぶ，家に泊つて

いるのと遊ぶ，各々男女差は認め難いようである。

第 1 図 (No.2) 駐留軍兵士との遊びの内容

駐留軍兵士との遊びの内容 (No.2) N = 103 名

玩具遊び 46.6% > 鬼ごっこ 26.2% > 積木遊び 15.5% > 絵本眺め 11.7% と有意の差が認められる。

Ⅲ 英米兵の日本駐留についての保護者の意見 (第 2 図) N = 325 名

全体的にみると，子供の教育上悪いから早く帰国してほしい 40.6% > 無答 28.4% > 子供の教育上悪いが経済上どうにもならない 14.1% > 影響なし 11.1% > 家の経済上長くいてほしい 5.8% と有意の差が認められる。

各型別に非教育的と思われる項目のみ挙げてみると

厳格型は影響なし，無答 > 家の経済上少しでも長くいてほしい。

第2図 駐留軍兵士について保護者の意見

1. 子供の教育上悪いから早く帰してほしい
2. 家の経済上少しでも長くいてほしい
3. 子供の教育上悪いから経済上どうにもならない
4. 影響なし
5. 無答

中庸型は無答>影響なし>家の経済上少しでも長くいてほしい。

寛大型は無答>家の経済上少しでも長くいてほしい、影響なしと有意の差が認められる。

各項目差をみると

無答は寛大型>中庸型>厳格型

と有意の差が認められるが、他項目は認め難い。

Ⅳ 駐留軍兵士に対する幼児の好悪状態 (第3図) N=382名

好悪差は、好き64.1%>嫌い35.9%と有意の差が認められる。

好きな理由：男女の平均順位は、ガムをくれるから19.3%>チョコレートをくれるから11.3%、菓子を与えるから10.2%>遊んでくれるから6.3%、お金をくれるから6.3%>

第3図 駐留軍兵士に対する好悪状態

1. ガムをくれるから
2. チョコレートをくれるから
3. お菓子をくれるから
4. 遊んでくれるから
5. お金をくれるから
6. やさしいから
7. 玩具をくれるから
8. どうしても
9. 写真をとってくれるから
10. 髪が茶色だから
11. お祈をするから
12. 小計(好き)
13. 何もくれない
14. 喧嘩をするから
15. 判らないことを話すから
16. 物をとるから
17. 酒をのんで暴れるから
18. 他所へつれてつかれるから
19. 恐い顔をしているから
20. すぐ怒るから
21. 親が嫌うから
22. どうしても
23. 小計(嫌い)

玩具をくれるから2.6%、どうしても2.6%、写真をとってくれるから0.7%、髪が茶色だから0.7% 好きと有意の差が認められるが、お金をくれるからとやさしいから好き3.9%、やさしいから、玩具をくれるから好き というのは差が認め難い。

男女差の平均は有意の差が認め難いがその内訳は、ガムをくれるから男>女、玩具をくれるからも男>女で有意の差が認められるが、どうしても、写真をとってくれるから、髪が

茶色だから、お祈りをするから、好き というのは女兒のみである。

嫌いな理由：男女の平均順位は、何もくれないから8.3%＞親が嫌うから4.9%，物をくれるから3.4%，判らないことを話すから3.2%，恐い顔をしているから2.8%，酒をのんで暴れるから2.6%，どうしても2.2%，すぐ怒るから2.1%＞他所へつれて行かれるから0.5%と有意の差が認められるが、喧嘩をするから5.9%と何もくれないから、喧嘩をするからと親が嫌うから嫌い というのは差は認め難い。

男女差の平均は有意の差は認め難いが、何もくれないから嫌いは男＞女、わからないことを話すから男＞女、どうしても女＞男、他所へつれて行くから男＞女と有意の差が認められる。

V 売春婦に対する好悪状態 (第4図)

N = 117 名 (男26名, 女91名)

好悪差は、好き83.9%＞嫌い16.1%と有意の差が認められる。

好きな理由：男女の平均順位は、可愛い21.1%，きれい20.4%＞やさしい11.9%，美味な物を食べる11.1%，良い物をくれる8.4%，どうしても6.0%＞英語が話せる0.8%，服を多く持つている0.8%，良い物をくれる8.4%，何でも買ってくれる3.4%から好きと有意の差が認められる。

第4図 売春婦に対する好悪状態

男女差は認め難いがその内訳は、きれい男＞女、やさしい男＞女は有意の差が認められるが、何でも買ってくれる、どうしても好

第5図 駐留軍兵士、売春婦に対する家族の話題

き、は女兒のみである。

嫌いな理由：男女平均順位は、酒を呑むから6.0%，どうしても5.1%，ハローと踊るから1.7%，母がいけない人といったから1.7%＞ハローとキッスをするから0.8%，遊んでいるから0.8%嫌い と有意の差が認められる。

男女差は認め難いがその内訳は、酒をのむからは男＞女で有意の差が認められるがどうしても、ハローとキッスをするら、ハローと踊るから、

遊んでいるから、母がいけない人といったから嫌いというのは女兒のみである。

Ⅵ 駐留軍兵士、売春婦についての家族の話題（第5図）N=325名

わからない91.7% > いた方がよい6.5% > いない方がよい1.8% と有意の差が認められる。その内訳は、「いた方がよい」は、遊ばれるから、良い物を与えるから、父が儲けているから、パンや肉を父母が持つて帰えるから、ジープを修理しているから、は有意の差は認め難い。「いない方がよい」は、母がいけない人といったから、お姉ちゃんと遊ぶから、悪いことをするから、暴れるから、と有意の差は認め難い。殆どの者が「わからない」「知らない」であつた。

男女差は応答児が少数のため求め難い。

Ⅶ 幼児の態度を悪とみた場合の親の態度

（第6図）N=573名

幼児が悪いことをした場合の親の態度を列举してみると次のようになる。

1. 判るように話す（悪い理由を話して聞かせる。こんこんと諭す。得心がゆくまで話す）
2. 家の子にしない（家から追い出す。何処へでも好きな所へ行くがよい。お母ちゃんの子供ではない。橋の下—山—へ行くように。茶碗を持つて出て行け、莫蔭を1枚やるから何処へでも行くがよい）
3. 仏—神—様がみていらつしやるからお母さんがいなくても悪いことをしてはいけません（ばちが当る。地獄へ落ちる。嘔を吐くとエンマ様が舌を抜く。眼が潰れる）
4. 乞食にやる（ホイト=註、各戸を渡り歩く物貰い=にやる、山寓にやる。お菰にやる。子取りにやる。遍路さんにやる。サーカスにやる。ジープにのせて貰う）

5. お父さんにいづつける（先生にいづつける。巡査に縛つて貰う。租父母にいづつける）

6. 灸をすえる（線香に火をつけて手の甲へ謝るまで火傷をしない程度に場所を変えながら当てる。ヤイト=註、灸=が欲しいの？ 注射するよとおどす）

7. 偉い人になれない（馬鹿になる）

8. 学校へ行かれない（学校の先生が悪い子は教室へ入れない。学校へ行くようになると笑われる。大学まで行かれない）

9. その他（倉—押入—へ入れるよとおどす。お尻を叩く—欧米人も叩くから—、何処ということなく叩く。頬を殴る。「いけない」と呪む。怒る丈、ひどく叱る程悪いことはしない。小遣いをやらない。お兄—姉—ちゃんだからしてはいけない。悲しそうな顔をしてみせる。相手にしない）

判るように話すを説得法、家の子にしないを

第6図 幼児の態度を悪とみた場合の親の態度

追放法、神仏がみているから悪いことをしてはいけないう神仏依存法、乞食にやるを自尊心損傷法、父にいゝつけるを権威借用法、灸をすえるを体罰法、偉い人になれない、学校へ行かれないを激励法として親の態度をまとめると

神仏依存法 25.6%、追放法 24.9% > 激励法 15.8% > 体罰法 6.3%、説得法 6.2%、無答 5.8% > 権威借用法 4.0%、自尊心損傷法 3.5% と有意の差が認められる。

地域差をみると

説得法……厳格型に基地 > 非基地
追放法……中庸型に基地 > 非基地
神仏依存法……寛大型に基地 > 非基地
体罰法……厳格型に非基地 > 基地
無答……寛大型に非基地 > 基地

と有意の差が認められ、他は認め難い。以上のように基地家庭の仕付け態度は非基地よりきびしい傾向がある。

項目別に仕付け型をみると

説得法……基地は厳格型 > 中庸型 > 寛大型。非基地は認め難い。
神仏依存法……基地は厳格型 > 中庸型 > 寛大型。非基地は厳格型、中庸型 > 寛大型
追放法……中庸型、寛大型 > 厳格型。非基地は認め難い。
権威借用法……寛大型 > 厳格型、中庸型。非基地は認め難い。
体罰法……寛大型 > 厳格型、中庸型。非基地は認め難い。
激励法……中庸型 > 寛大型、非基地は中庸型、厳格型 > 寛大型。

自尊心損傷法……有意の差は認め難い。

VIII 幼児の異常行動 (第7図)

N=573 名

全体的にみると

嫌食 51.6% > 疳癪を起す 21.8%、すぐ泣く

19.7% > きゝわけがない 13.5% > 嘘言 9.9% > 倦き易い 7.1%、指しやぶり 6.0% > 夜尿症 4.0% > 爪かみ 2.6%、何もしない 2.6% で有意の差が認められ、夜尿症と遊びの邪魔、遊びの邪魔と爪かみは有意の差は認め難い。

地域差をみると

夜尿症……厳格型に基地 > 非基地
吃音……厳格型に基地 > 非基地、中庸型に非基地 > 基地
嘘言……寛大型に基地 > 非基地
何もしない……中庸型に非基地 > 基地
倦き易い……厳格型に非基地 > 基地
遊びの邪魔をする……寛大型に非基地 > 基地
嫌食……厳格型に基地 > 非基地、寛大型に基地 > 非基地

と有意の差が認められるが、他型は認め難い。

項目別に仕付け型をみると

夜尿症……基地は厳格型、寛大型 > 中庸型。非基地の差は認め難い。
きゝわけがない……基地の差は認め難い。非基地は厳格型 > 寛大型
嘘言……基地は寛大型 > 厳格型、中庸型。非基地の差は認め難い。
疳癪……基地は厳格型、中庸型 > 寛大型。非基地の差は認め難い。
倦き易い……基地は寛大型 > 厳格型。非基地は認め難い。
嫌食……基地は寛大型 > 中庸型。非基地は中庸型 > 寛大型

と有意の差が認められる。以上の如く厳格型に異常行動が多い傾向がある。

IX 幼児の異常行動の単一症候及び症候群について (第8図) N=573 名
中の出現回数は単一症候……266,
二症候……390, 三症候以上……416, 計 1072 となる

異常行動の総出現回数 1072 の百分率を求めると (A 図),

嫌食 58.6% > 疳癪 28.9% > すぐ泣く 28.4% >

第7図 小児の異常行動

きわめない 19.7% > 倦き易い 13.9% > 嘘言 9.9%, 指しやぶり 9.2% > 邪魔をする 5.8%, 夜尿症 5.6% > 爪かみ 3.6% > 何もしない

2.6%, 吃音 1.4%

と有意の差が認められる。

単一症候, 二症候, 三~五症候を各出現回数で百分率を求めると (B 図)

指しやぶり……三~五症候 > 二症候 > 単一症候と有意の差が認められる。

夜尿症……三症候 (以下三~五症候を略す) 二症候 > 単一症候と有意の差が認められる。

すぐ泣く……三症候, 二症候 > 単一症候と有意の差が認められる。

倦き易い……三症候 > 二症候 > 単一症候と有意の差が認められる。

嘘言……二症候, 単一症候 > 三症候と有意の差が認められる。

疳癪……二症候 > 三症候 > 単一症候と有意の差が認められる。

嫌食……単一症候 > 三症候 > 二症候と有意の差が認められる。

各項目の百分率を求めて B 図のものと相違している箇所をあげると (C 図)

爪かみ……二症候 > 三症候 > 単一症候と有意の差が認められる。

吃音……二症候 > 単一症候 > 三症候と有意の差が認められる。

疳癪……二症候, 三症候 > 単一症候と有意の差が認められる。

第3表の如く 同一人に三~五症候のある場

第8図(A) 幼児の異常行動の単一及症候群

第8図(B) 幼児の異常行動の単一及症候群

第3表 異常症候群

項	目	実数(人)
すぐ泣く	邪魔をする 疳癪 あき易い	4
すぐ泣く	指をはめる あき易い	1
すぐ泣く	ききわけがない あき易い 偏食 疳癪	7
すぐ泣く	偏食 疳癪	11
すぐ泣く	偏食 指をはめる	1
すぐ泣く	指をはめる ききわけがない	4
すぐ泣く	夜尿症 疳癪	1
すぐ泣く	夜尿症 偏食 ききわけがない	1
指をはめる	夜尿症 偏食	6
指をはめる	爪をかむ 疳癪 偏食	2
指をはめる	うそをつく 偏食	3
ききわけがない	偏食 うそを云う	9

第8図(C) 幼児の異常行動の単一及び症候群

合に、各々が無関係に組合わされるならば、66組の割合で表わされる筈である。それが13組は1.5%より多く出現している。その中6組は他のものより、より多く関係が深く有意の差が認められる。このもののみを取り出して信頼巾で表わしたのがD図である。この図は三～五症候と二症候との比較図である。二症候と三症候以上の場合と何れが多く出現するか差をみると次のようになる。

すぐ泣く、倦き易い……三症候＞二症候

すぐ泣く、嫌食……三症候＞二症候
嫌食、ききわけがない……三症候＞二症候

嫌食、疳癪……三症候＞二症候と各々有意の差が認められる。以上

第8図(D) 幼児の異常行動の
単一及び症候群

の如く三症候が多いようである。

X 保護者の仕付け法と幼児の異常行動の相関々係 (第9図)

出現回数の大なもの3項目を挙げると

すぐ泣く……追放法, 神仏依存法>激励法
疳癪……神仏依存法, 追放法>権威借用法
嫌食……追放法>神仏依存法>説得法
と有意の差が認められる。その他の項も追放法, 神仏依存法を用いる家庭の小児は異常行動が多い傾向である。

XI 幼児の遊び (第10図)

戦争ごっこ, ちやんばらごっこに対しての親の関心をみると (A図) N=573名
無答 54.6%>子供がしない 18.1%, 干渉する

第9図 保護者の仕付け法と幼児の異常行動の相関々係

第 9 図

17.0% > 干渉しない 10.3%

と有意の差が認められる。

地域差をみると

干渉する……厳格型、中庸型、寛大型は
基地 > 非基地

干渉しない……中庸型、寛大型は基地 >
非基地と差が認められるが、厳格型は
認め難い。

子供がしない……中庸型は 非基地 > 基地
で有意の差が認められるが、他は認め
難い。

無答……各型とも 非基地 > 基地

と有意の差が認められる。

項目別に仕付け型をみると

干渉する……基地は 厳格型 > 中庸型 > 寛
大型、非基地は 厳格型 > 中庸型

干渉しない……非基地は 厳格型 > 中庸型、
寛大型。基地は差は認め難い。

子供がしない……基地、非基地とも 厳格
型、中庸型 > 寛大型と有意の差が認め
られる。

パンパンごっこ、医者ごっこについての親
の関心をみると (B 図) N=573 名

しらない 80.6% > 他家の子供はするらしい 8.5
%, 最近はしないらしい 8.2% > するらしい
6.3% と有意の差が認められる。

地域差をみると

するらしい、他家の子供はするらしい、
最近はしないらしい……各型とも 基地 >
非基地

しらない……各型とも 非基地 > 基地

と非基地は 殆どの家庭は関心が低いよう
である。

第10図 (A) 幼児の遊び (戦争ごっこ、
ちゃんばらごっこ)

第10図 (B) 幼児の遊び（医者ごっこ、パンパンごっこ）

項目別に仕付け型をみると

他家の子供はするらしい……基地は厳格型，

中庸型＞寛大型．非基地は差は認め難い．

最近はしないらしい……基地は厳格型＞中庸

型，寛大型．非基地は認め難い．

知らない……基地は寛大型＞中庸型＞厳格型．

非基地は認め難い．

他家の両地区とも差は認め難い．

進駐軍の帰国した現在，この種の遊びは減少したらしいことを認めているようである．

Ⅲ 幼児の小遣について（第11図）

小遣い高を全体的にみると

零円 34.3%＞五円 25.5%，拾円 24.8%＞壹～参円 5.0%，貳拾円 4.4%＞拾五円 2.2%＞参拾

第11図 幼児の小遣について

円 0.8%＞五拾円 0.3%と有意の差が認められる．

地域差をみると

零円……3型とも非基地＞基地

壹～参円……寛大型は基地＞非基地

五円……中庸型は基地＞非基地

拾円……厳格型，寛大型は基地＞非基地

貳拾円……中庸型は基地＞非基地

参拾円……厳格型，寛大型は基地＞非基地

五拾円……厳格型，中庸型は基地＞非基地

不定……厳格型，寛大型は非基地のみである．

項目別に仕付け型をみると

0円……基地は中庸型＞寛大型．非基地は中庸型＞寛大型

五円……非基地は厳格，寛大型＞中庸型で基地は認め難い．

拾円……基地は寛大型＞中庸型．非基地は厳格型，中庸型＞寛大型

参拾円……基地は中庸型，寛大型>厳格型。

非基地は中庸型のみで他型はない。

五拾円……厳格型，中庸型は基地のみである。

以上の如く基地児の消費は大である。

小遣の使途について（第12図）N=573名保護者の応答書には幾種類も記入してあるので同種類の出現回数を調査人員で百分率を求めて主な物を挙げると，菓子26.3%>紙芝居13.3%>玩具7.7%，飴7.3%で食物を合計すると50.5%となる。玩具>当て物5.9%となる。33.3%の親は使途について関与していない。

考 察

厳格型が基地に少ないのは，駐留軍労務者，ギフト・ショッブやビヤホールの経営，又は下働き，副業としての駐留軍兵士，売春婦への部屋借し，母姉，叔母の売春業，駐留軍払下げ品及び盗品の売買等々が大半を占めているからではないかと思う。

寛大型が非基地に多いのは農村が約半数を占めていること，都会生活者の中に“叱らぬ教育”をはき違えている者，真に小児の自由を認めている者，多忙で小児の教育を放棄している家庭が原因していると思われる。

「駐留軍兵士との遊び」から考察されることは，5~6才になれば行動範囲が男女とも大になることである。特に男児の方が大となるよ

うである。

「売春婦」に対して綺麗な，やさしい，可愛いと答えた幼児が53.4%いることは注目すべきだと思う。「いけない人だ」ときかされている幼児は1.7%の些少である。最も手近かな教育がなされていないようである。

仕付けとは社会的に望ましい行動を習慣にまで作りあげることだと思う。それには未完成の幼児に絶えず良い模範と説諭を繰り返えし，保護者より愛情及び承認の needs が適度に満されているという安定感を与えることが必要と思われる。幼児期に適度な frustration や conflict を経験させておけば，maladjustment に陥ることなく，社会的に望ましい行動が自主的にとれるものと思われる。

保護者の仕付けの方法を分析してみると次のようになると思う。

(1) 説得法 (判るように話す)……「幼児の誤った行動について合理的に説諭する親はきわめて少ない」と関¹⁶⁾が述べるように，本調査でも6.2%である。

(2) 激励法 (学校へ行かれない，偉い人になれない)……親の不用意の言葉から学校嫌い，勉強嫌いになることがある。幾つ寝たら学童になる，という期待を待たせる激励法にしたいと思う。

(3) 扇動法 (お兄ちゃんだから)……兄姉としての自尊心をうまく利用し，承認の needs を満足させるようにもつていくとよいと思う。

(4) 無関心法 (相手にしない)……監禁法のように幼児を孤独にするのであるが，監禁法よりはよいと思われる。それは恐怖心は余りなく親の関心を得ようと努力するからである。

(5) 追放法 (家の子にしない)……小児特に乳幼児は親によつて総べての needs が満され，親に全く依存している。それを安定感を殺ぐような言語は口に出さないようにしたいと思う。この調査でもこの方法を用いられている小児は異常行動が大のようである。

(6) 神仏依存法（神仏がみている）……陰日向のない子供を欲するのは親の常であるが、道徳観念の養成として全智全能の神仏を説諭に用いるのはよくないと思う。ニール¹⁶⁾は「子供に対して宗教は単に恐怖を意味する」と。レーン¹⁷⁾も「説教のよりどころとして神仏が持ち出されると、神はただちに子供の心で禁止と罰の観念に結びつけられる」とこの種の説諭の不可なることを述べているが、横瀬¹⁸⁾は「“仏様にはみられている”ときかせると盗らなくなつた」と前2者の反対の言を述べている。これをみると日本人の宗教的観念と外人のとは異なるようである。日本人の神の観念は八百萬神であつて God ではない。即ち汚れを払い、危険、災難、凶事より守護を乞ひ願うために祭るのであるから未開人の magic に相通ずるようである。多宗教（氏神祭、クリスマス、花祭を祝う意）の親が神仏を引き合いに出したのでは余り害悪はないであろうが、親に対する信頼感が失くなるのではないだろうか。本調査でも異常行動児の多い傾向をみてもこの種の仕付け法はよくないと思われる。

(7) 自尊心損傷法（乞食にやる）……度々このような言葉を吐いていると幼児の自尊心を傷けるのみでなく、安定感をゆり動かして不安定児になるのではないだろうか。

(8) 権威借用法（父にいづつける）……母親の権威が失墜するばかりでなく引用される者には恐怖心を持つて臨むために、小児の精神発達には阻害されるように思われる。

(9) 体罰法（灸をすえる）……親の愛情の発露であろうが、親の意図とは逆に幼児に憎悪や恐怖の感情を植えつけることになる。このような喰い違いが積み重つて遂に家庭は不合理な場と化し、幼児は素直そうにみえても自信、自主性のない劣等感に被われた者になると思われる。欧米人も叩くというのは欧米崇拜観念が残存しているようである。折檻は幼児

に反抗心を起させるのみで功は全くないようである。

(10) 監禁法（押入へ入れる）……幼児が逃れることの出来ない場所に閉じ籠められた場合の恐怖心は終生拭われないようである。

(11) 威嚇予防法（注射をするよ）……医療に関したことは罰として用いない方がよいと思われる。

(12) 叱咤法（ひどく叱るほど悪いことはしない）……叱つた後の親の態度が問題だと思う。しつこく叱る場合と、一喝する場合とでは大分異と思う。

(13) にらみつけ法（いけないとにらむだけ）……眼で叱ることは口で叱るより弊害は大と思われる。にらみつけ法型の幼児は自分の needs が満足されない場合に相手を選ばずににらみつけるようである。

(14) 報賞法（小遣いをやらない）……賞罰を物質で表わすのは注意しないと打算的になる恐れがある。

(15) 被嘲法（人に笑われる）……幼児期の良心は外にあつて内にはない。が良心の養成法としては不可と思う。それは人の思惑にとらわれて消極的になり易いからである。

実際の仕付けは1種でなく2～数種が“怒る”の形で用いられると思う。“叱る”は理性的であるが、“怒る”は感情的だと思う。追放法が基地に多いようであるが、快楽を繁華街に求めるようになる恐れがある。

学令前といえ第一の反抗期を過ぎて成人の承認を求めようとする態度がみえだす頃であるが、親の眼に最近 maladjustment として写る幼児の行動について考察したい。

親は我が子の personality の形成に良い援助をするというよりは、世間体を思つたり、自分の好みの型に箝めようとしたり、又不当な高い要求水準を押しつけようとして、命令、禁止、抑圧をしている場合が多いのではないだろうか。幼児はその障壁を打破する方法を

しらないか、或は固過ぎるために frustration を起すのではないかと思われる。その他両親の仕付けに対する意見が対立した場合、家庭内が不和であるために conflict を生ずる結果、情緒の緊張を解消させる手段として異常行動が生ずるものと思われる。

(1)「爪かみ」「指しやぶり」について Kanner 等^{19) 20)}は「爪を噛むのは内部の緊張を運動によつて外部に発散される所の数種の形の一つとみなされなければならない。指しやぶりは空腹、当惑、自責の念、疲労、退屈、又不快な気持ちの時に拇指を吸うかも知れない」と述べているように基地児は遊び相手や遊び即ち紙芝居、買喰い、医者ごっこ、パンパンごっこ、お酒ごっこ等があるために非基地児に比して少ないのではないだろうか。又非基地の厳格型の多いのは不当な緊張感を与えるのみで、緊張を解消する遊びを与えず、小児自らも見い出さないのではないかと思われる。

(2)「夜尿症」を器質的变化には触れないで、心理的緊張解消手段として生ずる面のみについて述べたいと思う。ニール²¹⁾は「生理的原因によるかどうかについては、まだ私にははつきりわからない。たゞ私の知り得た所では夜尿症は通常無意識的自慰の結果であり、少くとも或る場合にはそれが母の胎内の復帰を意味する」といつているように基地児に有意の差の認められることは「子供の教育上悪いが経済上どうにもならない」という親の ambivalent が影響を及ぼしたと思われる。Kanner²²⁾は「単症候的な夜尿症は珍しい」といつているように本調査でも合併症的なものを持つている点を見ると、本症は性格の奥深く沈潜している frustration, conflict の解消法と思われる。駐留軍のいることは「影響なし」「無答」を合計すると 29.5% になるが基地児に多い点より考察すると大いに影響されていると思われる。

(3)「きゝわけがなくなつた」と親は嘆息しているが、正常に発育している幼児は親が自分の意に反した態度には抵抗を試みるのは当然である。幼児は表現力が拙ないために誤解を招き易いようである。

(4)親は幼児の心性未分化のための表現を「虚言」と解釈するようである。その他記憶の錯誤、判断の誤謬、虚飾等もあるが、方便の虚言は殆どなさそうである。幼児の行動は総べて頭型より原型を重ずるようにすれば場面逃避、責任転嫁的な虚言はなくなると思う。

(5)「吃音」は吃る人の personal の困難の徴候であると決定的な意見が多いようである。基地児に吃音の生ずるのを親が多忙で幼児に接する機会が少ないのに完全主義的な要求をしたり、幼児の言葉を最後まで聞かないで早合点をする結果ではないだろうか。

(6)「すぐ泣く」のは弟妹が誕生した場合、我儘を通してくれる者がいる際は些細なことで泣くようである。frustration tolerance の育成をすると同時に、退行機制は needs が満足されない旨理解させることが肝要と思われる。

(7)「疳癪」を起すのは不安、憎悪、conflict をもっているか、家庭の権威者の態度を模倣する場合のようである。

(8)「何もやらない」幼児は劣等感が強いが、過干渉及び完全主義者の子女のようである。外向されるべき攻撃性が内向したようである。非基地児に多い傾向は前述の他に生活の変化が乏しいと思われる。

(9)「倦き易い」幼児は人手の多い家庭、成人間で育つた spoiled child は刺戟を求めるとか、承認、所属の needs を満足させるために点々と遊びを変えるようである。

(10)「遊びの邪魔をする」のは承認、所属、愛情の needs が frustrate されると、他人の遊びの邪魔をするようである。

(11)「嫌食」以外では単一症候は少ないようである。これは山内²³⁾が述べたように生

長発達段階に於ける経過的現象であることを裏づけているようである。又質問紙へは「食物の好き嫌いをいう」とした項へ「嫌い」の箇所へ丸印をつけたり、「その他」の項へ嫌いな食物を羅列されていた。この点よりも偏食というよりは嫌食とした方が妥当と思われる。

「戦争ごっこ」「ちゃんばら」は再び戦争に追いつ込むと大人達は心配しているようであるが、男児はこの遊びによつて斗争性、攻撃性が吐かされるのではないだろうか。破壊的な攻撃精神を遊びによつて昇華させたいと思う。

「医者ごっこ、パンパンごっこ」を家屋の裏、庭の片隅でしていることは、悪い遊びということは知つているようである。ニール²⁴⁾は「小さい子供同志の性的遊戯は自然な健康的な遊びである」と述べているが、非基地児が男女の差異を発見する場合と、基地児が刺戟されて性的遊戯をするのでは趣きを異にするように思われる。望月²⁵⁾もこのことを憂いているが、健全な幼児の世界を与えたいと思う。Gross²⁶⁾は幼児の遊びについて生活準備説を称えているが、この種の遊びはさせない方がよい。それも命令、禁止の形でなく自発的に他の遊びをするように誘導したいと思う。

幼児に毎日のように小遣いを与えて好みの物を自由に購入させるのは自由教育をはき違えていると思う。「近所が与えるから与える」というのでなく、隣人と合議の上善処すべきだと思う。幼児には金銭を与え過ぎるより与えない方がよいと思う。買い喰いは衛生教育の出来ない点もマイナスになると思う。

要 約

1) 駐留軍基地の親子各々325名、非基地の保護者248名に対して養育法と幼児の異常行動の相関の有無をみるため質問紙法により、基地児573名の駐留軍兵士及び売春婦の好悪状態は個人面接法で調査をした。

2) 仕付け型は厳格型、中庸型、寛大型の3型に分類して異常行動を量的に確定するため

に基地、非基地にわけて出現状態をみようとした。

3) 幼児の異常行動として夜尿症、嘘言、嫌食は基地>非基地。何もしないは非基地>基地と有意の差が認められた。即ち異常行動は基地児の方が多いようである。

4) 仕付け法としての神仏依存法、追放法を用いると異常行動が大となるようである。

5) 異常行動の単一症候、症候群をみると、指しやぶり、夜尿症、すぐ泣く、倦き易いは三症候～五症候の合併症が多く、嫌食は単一症候が多いように有意の差が認められた。

6) 小遣は基地児が多く消費するようであり、非基地児は全く消費しない者が多いようである。その用途の大半は飲食物である。保護者の1/3は用途については無関心であつた。

7) 駐留軍兵士、売春婦に対しては幼児の大部分は好感を持つているようである。

対策に就ての示唆

いままで記述したこのさゝやかな調査から、上に要約した様な点を探り出して、多少、この問題について少くとも筆者にとつては、理解を進めるに役立った。ついては対策に関しても若干の示唆をこゝに提出することを許されたい。

1) 就学前は男女児とも行動範囲が大となるから、善悪の判断、交通道德の指導が必要と思われる。

2) 駐留軍引き揚げ後の職を与えないと今後の幼児の行動が懸念される。Devine²⁷⁾がいうように「自力による正常な生活を営み得ない人の向上と利益を防げるような環境条件を改善するように社会事業を発展させる」ようにしなければ今後の基地の道德教育は改良され難いようである。

3) 売春婦のよくないことを各家庭で幼児に説明すると同時に、勤労の尊さをしらせたいと思う。

4) 安定感を失うような体罰法、追放法、自

尊心損傷法を慎しみ、扇動法、説得法、激励法、無関心法を適当に用いるとよいのである。又我が子から或る程度の尊敬と信頼を受けないと仕付けの効果は上り難いようである。その点権威借用法、神仏依存法は用いない方がよいようである。

5) 厳し過ぎる仕付よりは寛やか過ぎる方がまだよいと思う。厳し過ぎる仕付けは所謂従順にはなるが、自律性の欠損、自己微罰、罪障感のため Neurose になるようである。

6) 爪かみ、指しやぶり、夜尿症自体には無関心法を用いると同時に、遊びに熱中させながら自信を得させ、時には我子と遊ぶことによつて愛情の needs を満足させると効果が挙るようである。特に toilet training 期を過ぎた幼児には無関心法がよいようである。

7) 幼児の精神生活は身体運動から充分に分化していないから、遊びに熱中させることによつて、家族から受ける不快、抑圧、不満、不安等の情緒は外部に project されるからよい。Axline²⁸⁾ の遊戯治療はよいようであるから大いにさせたいと思う。水遊び、泥遊び、大筋肉を使用した遊びは精神衛生上よいようである。併し睡眠、休息、栄養は充分にとらせたい。

休日是一家族がともに遊ぶ時間を設けることである。親子間の conflict の原因の一つとして Crow²⁹⁾ は「父親が不在勝ちであるために母親が養育を任せられている」といつているが、日本でもこんな例が多いと思われる。我が子が反抗的な態度に出た場合に、母親が権威借用法を用いたり、父親がたまに在宅している際に、叱言をいうことは、幼児に conflict, frustration, complex を懐かせることになる。休日に一家族が行動を共にしている家庭には異常行動は少ないようである。我が子と遊ぶことによつて各児の仕付け法は教えられると思われる。

同年令の幼児と遊ばせることによつて give and take の必要を学ぶのであるから、言葉、

行儀が悪くなるのを恐れないで大いに遊ばせたいと思う。

8) 家族の協力を得て仕付けた一貫性 (frustration tolerance, conflict tolerance) をもたせ、小学校入学までに悪癖があれば矯正すると同時に、自律性があり、明るく自己表現が言葉でうまく出来るように仕付けたいと思う。

幼児の一日は遊びである。元気でよく遊ぶ幼児ほど心身の発育はよいようである。総べての幼児に遊びの機会均等を与えたいと思う。その遊び場は健康な情緒を形成し、社会的適応を獲得するように調整しなければならない。我が子の幸を希うならば遊び友達も仕付けて環境の浄化を図らねばならないと思う。

対策を要約すれば

(イ) 幼児の仕付けは一貫性を持たなければならない。そのためには家族は母親に協力しなければならない。時には一家族そろつて外出するようにすれば異常行動は少ないようである。

(ロ) 売春婦のよくないことを各家庭で教えると同時に健全な遊びを与えることが緊要と思われる。

終りに臨み御指導御校閲を賜つた東大名誉教授福田邦三博士に深甚なる謝意を表すると共に、此の調査に御便宜を与えられた課長西川州男殿、御援助戴いた銀の鈴、両城、四恩館、江田島、切串、救世軍、徳風、東畑、鍋、久島、小国、千田、こばと各保母主任、両城幼稚園長と、本調査の御手伝いをしてくれた広島短大副手吉野佳子、松島洋子、広島保専生徒、田中フジエ嬢に敬意を表する。

引 用 文 献

- 1) 大槻憲二：続恋愛性慾の心理とその分析処置、昭和15、p.325.
- 2) 中野他6名：国際理解と基地の子供、児童心理7巻、7号、1953.
- 3) 日本教職員組合：日本の教育、昭和28、p.254~292.
- 4) 清水他2名：基地の子、昭和28.
- 5) 中野他6名：2に同じ.

- 6) **Baldwin et al:** Patterns of Parent Behavior, Psychol. Monogr. 1945, No. 268.
- 7) 関計夫：しつけの心理，昭和30，p.~17.
- 8) **Symonds, P.M.:** The Psychology of Parent-Child relationships, 1939.
- 9) **グリユツク**著：中央少年問題協議会訳，少年非行の解明，昭和28，p.135~137.
- 10) **岩淵由之**：親の態度と児童の性格児童心理，8巻，12号，1954.
- 11) **Cattell, R.B.:** Personality. 1950, p.347~348.
- 12) **水原，島，藤田共著**：家庭での子供の扱い方とクラス間の人気，児童心理と精神衛生，5巻，4号，1955.
- 13) **IFFL:** 幼年教育，昭和26，p.39.
- 14) **関，鈴木，守屋，重松共著**：叱り方とほめ方，昭和28，p.173~174.
- 15) **KATO MATSUDA and YAMASITA:** 百分率法，生態学研究，1952.
- 16) **A.S. ニイル**著，**霜田静志**訳：問題の子供，昭和25，p.131~132.
- 17) **ホーマー・レーン**著，**小此木真三郎**訳：親と教師に語る，昭和28，p.53~55.
- 18) **横瀬善正**：欲求の心理と指導，昭和26，p.104~105.
- 19) **Kanner, L.:** Child Psychiatry, 1950, p.528~538.
- 20) **USA 政府児童尿監修**，**大森和子**訳：子供の事典，幼児篇，p.202~209.
- 21) **A.S. ニイル**著，**霜田静志**訳：問題の親，昭和26，p.259~260.
- 22) **Kanner, L.:** Child psychiatry, 1950, p.436~437.
- 23) 著者：小児性食性異常について，民族衛生21巻3,4号 昭和30. p.111.
- 24) **A.S. ニイル**著，**霜田静志**訳：問題の親，昭和26，p.180.
- 25) **戸川，望月，乾**著：親の知らない子供の生活，昭和28，p.185.
- 26) **Cross, K.:** The Play of Man, 1901.
- 27) **Devine, E.T.:** Social Work, 1922, p.10.
- 28) **Axline, D.M.:** Use of Play therapy, 1947.
- 29) **Crow & Crow:** Mental Hygiene in School and Home Life, 1942, p.128.

Studies on the Effects of Olfactory Stimulation
for General Activity of Mice.

(I) On the Effects of Iso-butanol and Iso-amylalcohol

By

Shozo KOGUMA

Using driving wheel, the author tested the effect of olfactory stimulation of iso-butanol and iso-amylalcohol on the general activity of inbred strain of Swiss albino mice, CFW, DDd, and Na-2.

In general, iso-butanol was more effective than iso-amylalcohol, and showed the effect to slow down the activity of mice even in a diluted condition. The most sensitive strain was CFW.

(From the Department of Hygiene, Fukushima Medical College, Fukushima)

A Survey on Children's Reaction in the Vicinity of the
Foreign Armed Forces Base
First Report. Attitude of Preschool Children

By

Y. YAMANOUCHI

The present survey consists of (i) questioning by questionnaires 325 families at a base town and 248 families at a non-base town on the nursing pattern of pre-school children and on any abnormal behaviour of the children; and (ii) detecting by personal interview of 573 pre-school children how they like or dislike foreign armed personnel and prostitute.

Significant difference was found in abnormal behaviour such as nocturia, lie, or biased food discrimination between the children of the base town and those of the control town, prevalence of abnormal behaviour being greater among the former.

Most of the children appear to have friendly feeling toward the foreign armed personnel and the prostitute.

(From the Hiroshima Prefectural Junior College for Women)